

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 夏山縦走パート2

池工の夏山縦走パート2は、17日から20日までの3泊4日で表銀座を縦走した。7月の常念蝶1泊2日、8月初旬の朝日白馬2泊3日を経て、次第にステップアップしながら、「槍」を目指すというプログラム。生徒に聞くと行きたい山のベスト3はご多分に漏れず「槍」「富士山」「穂高」である。4月から部活が活発になってきたので、今年は槍に行こうと生徒と話をしていたが、コースについては、やはり自分たちの身近なところから登ろうと燕から登ることにした。今回の生徒は残念ながら6名の参加にとどまった。工業高校は、夏休みは結構いろいろあって、全員の都合を揃えるのが難しいのである。しかし、危険箇所を伴う3泊4日の長丁場、顧問2名に対してはむしろこのくらい的人数がせいぜいであり、その意味では適正な登山であった。今回、総じて天候に恵まれ、僕らの山行は満足度100%。しかし、18日昼過ぎ落雷を避けて、ヒュッテ西岳に僕らが避難している最中に、無謀にも槍の山頂に向かわれ、なくなった方がいたのは生徒にも僕にも大きな教訓となった。このことについてはのちほど述べる。

さて、3年1名、2年3名、1年2名に顧問の藤田、大西の8名パーティは、Nタクシーのジャンボで中房温泉に向かった。今回は、同社の車回送サービスにお世話になった。縦走の際には、その足をどうするかが一つネックであるが、上高地からの公共交通機関を使う金額と車回送料金（沢渡まで1台9000円）とを天秤にかけ、この回送サービスを使った。沢渡で入浴もでき生徒にも好評であった。中房温泉を8時15分に出発。実は燕山荘に登るのは、僕にとっては4回目だが、最後に登ったのは中2の時なので、実に約40年ぶりであった。10:50に合戦小屋着。中高年のツアー登山が多く、何カ所かで渋滞が発生していた。3大馬鹿登りとはいうものの、7月の三ツ股からの常念や、蓮華温泉からの朝日への登りに比べれば、距離的にも遙かに短いので、生徒にとっては意外と楽勝だった様子。12:20に燕山荘に到着した。それまでは晴れていたが、テントを張り終わるとぱらぱらと雨が降ってきた。13:10、小雨の中、燕岳を目指して出発。頂上に着いたころには雨も上がり、槍の方こそ望めないものの、安曇野はぼっちり見えた。夕刻にはそれまで姿を見せなかった槍も姿を現わし、明日の晴天を約束してくれていた。

18日は、予定では西岳まで、もし行ければ殺生までというつもりで5:00に出発した。雲一つない青空の下、目の前のパノラマを堪能しながら快適な縦走路を進む。2699mのピークで休憩した時、目の前の大天井岳を眺めながら、「大天の頂上は踏んでいこう」と生徒には伝え、進ませる。その心は……。案の定、生徒は大天の巻き道との分岐で、「槍ヶ岳」という看板を見て、躊躇なく巻き道を進んでいく。暫く進んだところで、「待て！」と声をかけ、現在地を確認させる。そして、なぜこちらの道を進んだのか、それに対して誰も疑問を抱かなかったのか、このままで大天の頂上に行くことができるのかどうか考えさせ、自分たちでどうしたらいいかを考えさせた。正解は当然、「分岐まで戻る」である。その結論を生徒たちが出すまで待つ。一人一人が地図を見て現在地を確認して、自分で判断することが如何に重要かを少しは分からせることはできただろうか。

遠回りにはなるが、こうして常念山脈最高峰 2910m の大天井を登った。喜作新道を快調に進み、赤岩岳を越えて暫く進んだ 11:45 頃、突如雨が降り出した。雨はあつという間に土砂降りとなり、雷鳴が聞こえだした。「やばい」と思った。岩陰に身を隠すかそれとも小屋に逃げ込むか。僕は、「稜線上は身を低くして急げ」と生徒に指示を出し、とにかくヒュッテ西岳を目指した。12:05 濡れ鼠でヒュッテに到着。暫くして少し遅れていた藤田さんも無事到着し、ほっと一安心。本日の行動はここで打ち切ることにした。引きも切らず雷鳴は轟き続け、小屋から一步も出られない。しかし、雨宿りをしながらこの雨は恵みの雨とばかり、生徒にコッヘルを出させ、小屋の雨樋の下に滴り落ちる雨水を集めさせる。全員の水筒とコッヘルは満タンになり、期せずして翌日の行動分までの水が調達できたが、これも生徒にとっては勉強になっただろう。何せ前日は水代だけで 4000 円もかかっていたのだから……。この時、僕らは外に出ようなどとは露ほども思わなかったのだが、なんとさらに上部の山小屋（ヒュッテ大槍）を出て、槍に向かったパーティが落雷により尊い命を失ったと聞いたのは、夕刻ビールを買いに行ったヒュッテ西岳の従業員からであった。3 時頃小康状態になった時、ヘリが飛んでいたのでは何かあったのではないかと直感していたのだが、この日は、夕刻まで一時的に雷鳴が聞こえなくなった時はあったが、稜線を歩こうという気にはならない天候が続いていた。

19 日は、再び天候が回復。次第に大きくなる槍に歓声を上げながら登った。4:00 にテン場を出て、8:25 に槍ヶ岳山荘に到着。頂上に着いたときは、僕らの他に 3 人いたが、そのメンバーが下りた後は、池工だけで独占。なんとも贅沢な時間を過ごした。生徒たちの感動が伝わってくる。昨日ここで亡くなった方がいるかと思うと複雑な思いもあるが、その方々がなぜ昨日のあの天気での雷の巣とも言える山頂を目指したのかは理解に苦しむところでもある。予定では南岳を回ることになっていたが、昨日の天気と今日の空模様を判断して、下山することを決行。南岳経由で生徒に見せたいと思っていた氷河公園は、サブ行動で行くことにした。グリーンバンドの下で、氷河公園まで写真を撮りに行っていたという槍ヶ岳山荘の穂苺さんに会い、昨日の様子を伺った。僭越ながら、下に穂苺さんがホームページ上で公開している「あるじの視線」を引用させていただいたので、参考にされたい。寄り道をして氷河公園を楽しんだ我々は、ババ平で幕営。

20 日は朝 5:30 に出発し、10:00 に上高地着。沢渡温泉で 4 日間の汗を流し、回送してあった車で 12:30 には学校に無事帰着した。娑婆はまだ暑い、夏休みはもう終わりだ。

## 遭わなくとも良かった事故

以下、槍ヶ岳山荘の穂苺さんが HP 上で載せられている記事を転載させていただく。

今日、槍ヶ岳に登って雷でうたれて亡くなられた方がありました。過去にも雷に打たれて亡くなられた方があり、槍ヶ岳山荘では襲来警報機を設置して、雷が 200 キロ以内に来ると第 1 次注意報が出て、20 キロ以内に来ると第 2 次注意報がでて、雷がいつ落ちてもおかしくないときには警報が鳴ります。今日雷に打たれた方は、山荘に寄らずそのまま頂上に向われました。頂上には、他には誰も向われてはいない状況でしたので、登られている方に気が付いたスタッフは、メガフォンで注意をして下山するようお願いしましたが、聞こえないかのようにそのまま登られて災難に遭われました。なぜこのようなことを書くのかというととても残念だからです。遭わなくとも良かった事故に遭われてしまった方が、出てしまったことがとても残念です。